

ドッチビー



1 概要

ウレタンとナイロンを使用したソフトディスクを使用して行うドッジボール形式のゲームです。

アメリカのフライングディスク競技者が製作した柔らかいディスクの遊び方として、人にあたっても怪我することなく遊べる特徴を活かして、プラスチックディスクにはできない「当てて遊ぶ」という発想から「ドッジボール」+「フリスビー」という形で日本のヒーロー社によって考案されました。

当初の柔らかいディスクは縫製や飛行性能に大幅な改良が加えられ、2000年以降「ドッチビー」として販売されています。

2 用具

- ・ドッチビー270（直径27cm、重さ85g）

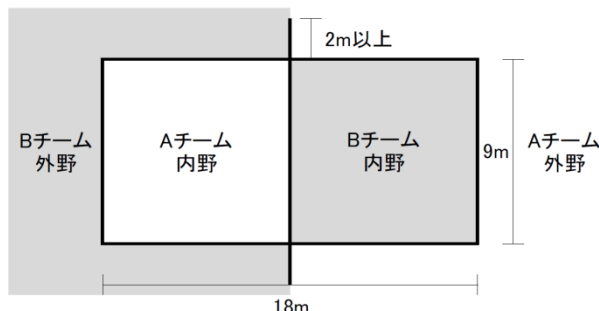
3 場所・コート

- ・屋内外でできます。
※屋外で使用了場合は、用具を軽く拭いてから返却をお願いします。
- ・体育館で行う場合は、バレーボールのコートを利用します。
※センターラインを2m以上延長します。
※外野に外枠の制限は設けません。



4 人数

原則として13人対13人で行います。



5 ゲームの進め方

- (1) ゲーム開始前に、各チームは内野・外野のそれぞれの配置人数を決める。
※配置人数、配置位置は自由だが、内・外野共に1名以上配置しなければならない。
- (2) ゲーム開始時のコートをとるかディスク所有権をとるか、じゃんけん等で決める。
- (3) 審判の合図でゲームを始める。
- (4) ディスクを持ったプレイヤーは、5秒以内にディスクを投げる。
※最終的に相手チームの内野プレイヤーに当てることを目的とする。
- (5) 内野プレイヤーは、相手チームのプレイヤーがノーバウンドで投げたディスクに当たった場合、アウトとなり、速やかに外野に移動する。
※ただし、ディスクに当たった後、ディスクが地面に落ちる前・相手チームがディスクを触る前に、味方のプレイヤーがディスクをキャッチした場合はアウトにはならない。
- (6) 外野プレイヤーは、相手チームの内野プレイヤーをアウトにすることにより、自分の内野に入ることができる。（プレー開始時に外野にいるプレイヤーも同様）
※ただし、アウトをとってからすぐに自分の内野に入らなかった時、または、内野に入る前にディスクに触れた時は、内野に入る権利が消滅する。
- (7) 1ゲームは15分とし、時間内に相手の内野に1人もプレイヤーが残っていない状態にするか、または、ゲーム時間経過後、より多くのプレイヤーが内野に残っているチームが勝者となる。

6 ルール

(1) ディスクのキャッチ

- ・片手または両手でディスクをつかんでいる状態、または、両手でディスクを挟んでいる状態をいう。(ひざや腕でディスクを挟んでいる等の上体は、キャッチにはならない。)

(2) 内外野の移動

- ・プレー中、内外野を移動する際は、相手陣地を通ってはいけない。
- ・内外野を移動するプレーヤーが原因で、その相手チームに不利が生じた場合、そのプレーは無効となり、ディスクの所有権はそのプレーの直前の状態に戻される。

(3) ディスクの所有権

- ・静止したディスクは、静止したコートของทีมに所有権がある。
- ・地面を転がったり、すべったりしているディスクは、そのディスクが完全に自陣コートに入っている状態のときに取ることができる。
※ただし、内野プレーヤーが外野にあるディスクを取ったり、外野プレーヤーが内野にあるディスクを取ることはできない。
- ・空中にあるディスクは、取る際、及び着地の際、足がラインを踏んでいたり、踏み越していなければ、どの時点で触れたりキャッチしたりしても良い。(所有権はキャッチしたプレーヤー。)
※空中にあるディスクを、それぞれのチームのプレーヤーが同時にキャッチした場合は、同時キャッチの直前にディスクに触れたプレーヤーの相手チームのプレーヤーがディスクの所有権を得る。
- ・ライン上のディスクは、最後にディスクに触れたプレーヤーの相手チームにその所有権がある。

(4) タイムアウト

- ・プレーヤーはプレー続行不能、または、そのままゲームを続けるには危険があると判断した場合には、審判に対して手を挙げて「タイムアウト」をアピールできる。
- ・アピールがあった場合(けが人が出た場合、その他、著しくゲームが中断する場合なども)、審判はすぐにゲームを中断させる。
- ・アピールがあった時点で空中にあるディスクは、地面に静止するかプレーヤーにキャッチされるまで有効となる。
- ・タイムアウト中、他のプレーヤーはその場から動いてはいけない。プレー再開は、もといた場所と同じ場所から、ディスクはタイムアウト前に持っていたプレーヤーが持って、審判の合図で再開する。

(5) ファール

- ・以下の場合、ファールとなり、ディスクの所有権は相手チームに移動する。
 - ①内野同士でパスをした。(直接手渡すことも含む)
 - ②外野同士のパスの際、ディスクがコートのいずれかのライン上を通過しなかった。
 - ③ディスクを投げる際、ラインを踏んだり、踏み越したりした。
 - ④ディスクを取る際、及び着地の際、足がラインを踏んでいたり、踏み越したりした。
 - ⑤相手コート内にあるディスク、ライン上にあるディスクに触れた。
 - ⑥ディスクをキャッチしてから5秒以内に投げなかった。
 - ⑦ゲーム中、故意に相手チームのプレーヤーに触れた。
 ※ただし、空中にあるディスクは除く。

(6) 警告

- ・以下のような行為を行った場合、審判は警告を与え、注意する。警告が与えられたにもかかわらず、同様の行為を行った場合、審判はそのプレーヤー、またはチームを失格にすることができる。
 - ①プレーヤーや監督が、故意にプレーの進行を遅らせる行為や時間稼ぎと思われる行為をした。
 - ②プレーヤーが、いるべき場所を意図的に離れた。また、著しくゲームの進行に影響を与えた。
 - ③プレーヤーや監督が、他人に迷惑を与える行為を行った。